

考古学から見た播磨町の遺跡や出土品など、文化財のよもやま話をお届けします。

播磨町 むかし昔

その九 『播磨国風土記』の荒ぶる神③

『播磨国風土記』揖保郡林田里伊勢野の条の地名説話には、いつも移住してきた人々が平穩に暮らすことができませんでした。そこで、衣縫猪手と漢人刀良等の祖が、伊和大神の子である伊勢都比古命と伊勢都比売命を山麓に社を造って祀ると、開墾・定住が可能となり、里を形成することができると言います。

また、『肥前国風土記』佐嘉郡の条の郡名説話に、佐嘉川の川上に荒ぶる神が居て、道行く人の半数を生かし、半数を殺害した。そこで、県主等の祖である大荒田が占ったところ、土蜘蛛の大山田女と狭山田女の2人の女性が居て、「下田の村の土を取って、人形・馬形を作り、荒ぶる神を祀るならば必ず和ぎなむ」と言った。この言葉に従い神を祀ると、荒ぶる神はこれを受け入れて和らいだのです。同じく基肄郡

姫社の郷の条にも、よく似た話があります。占ったところ、「筑前国宗像郡の人、珂是古をして、吾が社を祭らしめよ。若し願に合はば、荒ぶる心を起さじ」と託宣があった。そこで、姫社の社に社を建てて祀ると、祟ることは無くなったと言います。

各地風土記の伝承では、こうした荒ぶる神への捧げものは佐比や酒、人形・馬形や機織具だったりするので、このように、土地に坐す神の好むのを捧げ祀ることで、土地を開墾して定住が可能になり、交通妨害などの祟りから逃れられると考えたのが、古墳時代人の神祭りの基本的なあり方だったのでしょう。

これを裏付けるがごとく、供献品と推定される祭祀遺物（人形・馬形などの土製模造品や、有孔円板・勾玉・白玉などの石製模造品、鉄製模造品）

【問合せ】播磨町郷土資料館 学芸員 大平 茂
☎079(435)5000



鏡形



勾玉



人形

加東市河高・上ノ池遺跡出土「土製模造品人形ほか」
(加東市教育委員会提供)

を、祭祀遺跡から発見しています。それ故、地域ごとに独自の神を祀る集団（氏族）が存在したことも理解できます。こうした場所には川・峠などの境界地、川を渡る場所、巨大な樹木や自然石の下、富士山を小さくしたような里山（神奈備山）の麓などがあります。この地に奈良時代以降、神が常駐するための神殿（神社）が作られるようになったのです。

町の人口 11月1日現在

住民基本台帳人口（ ）は前月比

34,772人(-13人) 男...17,010人(+4人) 世帯数...14,402世帯 (-3世帯)

女...17,762人(-17人)

